

進路だより

通過点

流山市立おおぐろの森中学校

令和5年4月27日

進路だより 第1号

◆はじめに

みなさんが、自己の将来を見据えて「進路決定」をする時期は、「もうすぐそこ」まで来ています。その「進路決定」を行う「手助け」ができるように、この進路だより『通過点』を発行していきます。

進路だよりのタイトルは、「通過点」です。この言葉の意味は、考えなくてもわかると思いますが、辞書を引くと通り過ぎる地点を意味する語・・・。

そこが目的地や目標地点ではなく、目標とするところは更に先にある、ということを前提して用いる表現。と示されています。

自分が進みたい道を進むために、みなさんが選ぶ道は十人十色です。この1年間の旅は、楽な道を選ぶ人もいれば、険しい道を歩む人もいるでしょう。もしくは、歩みたかった道を歩める人もいれば、歩みたかった道を歩めない人もいるかもしれません。どんな旅になるかは、これからのみなさんの生活・学習次第です。これからの1年は、いままでに経験したことのない感情やプレッシャーで押しつぶされそうになることがあるでしょう。ただ、ここで強調しておきたいことは、人生のすべてではない！ということです。

「義務教育修了＝15才での進路選択」は、人生のすべてではなく、人生という旅の「たった1つの通過点」にしか過ぎません。例えるなら、高校合格をゴールとしてしまえば、高校生活での目標を見失うことに繋がり、さらにその先の人生の目標を見つけることができなくなります。結局のところ、中学校卒業時に進路決定した先で、どう頑張るか、どう生活するかが大切だということです。

だからこそ、これから旅をする人生を選ぶ基準は、「自分たちはどう生きていくか？」という視点から進路を選択し続けて欲しいと願っています。目先の高校入試だけを見るのではなく、将来を見据えて、今の自分と向き合い、『夢』の実現に向けて全力で努力してください。

ただ、人は弱い生き物だとよく言われます。特に自分一人で何かを行うとなると、様々な誘惑に打ち克たなければなりません。そこでカギを握るのが、「学級・学年としての集団の力・雰囲気」です。142名の夢の実現に、142名の集団で頑張りたい。そんな集団であってほしい。そう思います。

「自律」という学校目標の下に、自ら考え、選択して行動する。「一生懸命」という学年目標の下に、とにかく何事にも一生懸命に取り組む。目先の利益ではなく、社会に出て大事にされる人、社会に貢献できる人、社会を創造できる人など、になってほしい。それが学年の先生方の思いです。

そしてこれからは、自分の意志で進路選択ができ、自分で高校・大学・仕事を選べることになります。こんなワクワクすることないですよ！でも、言い換えると自分が責任を負うことが増えるということです。これからの1年間、ぜひ責任感を持って身の回りのことに向き合っていきましょう。他の誰でもない、自分の人生を自分が生きているということを忘れないでください。

人生100年時代。高校入試で人生が左右される？人生失敗？そんなことがあったらやっつけられるか！かの有名な電球の発明者エジソンは、1度も失敗をしてないのだから！

※進路だよりを1部生徒へ配付し、進路ファイルへとじ込みます。また、スキットメールとホームページで各家庭へお知らせいたします。ご不明な点等がございましたら、遠慮なくご連絡ください。